



黄河の森

K F G

発行/特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長/矢野正行
編集責任者/小川良太
〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg
IP:05031111874



オトカ前旗ハリサリ村・村民みんなで沙柳の植樹 (2014年3月)



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 第11回通常総会開かれる
- P.2 チャリティー収益金贈呈式
- P.3 講演「生物多様性と緑化」
- P.3 第11回総会そして懇親会
- P.4 庭木の健康診断12
- P.4 絵本からのエコ・メッセージ19
- P.5 黄土高原の植物20
- P.6 河内長野を訪ねて
- P.6 開催3年目のKFG歴史散歩

—— 第11回 通常総会開かれる ——

内モンゴルオトカ前旗での「第2期事業」が始まる

黄河の森緑化ネットワーク第11回通常総会が5月31日、神戸市中央区の中華会館で開催されました。会は石嘉成代表理事の「現在の日中2国の間には困難な問題が表出しているが、我々はこれまで培ってきたカウンターパートとの友情・信頼関係を市民の立場で会員の皆様と共に継続・発展させていきたい」との挨拶の後審議をスタートしました。

第1号議案では13年度の事業概要・財産目録・収支計算書の説明報告が行われました。蘭州市での南北両山緑化行程指揮部との第3期事業としては、昨年10月にワーキングツアーで現地を訪れ植樹を

行うと共に支援金100万円を手渡しました。この資金は当法人の会費・寄付金による単独負担です。

内モンゴル自治区オトカ前旗における活動は日中緑化交流基金の支援金500万円による事業です。現地では春期より村民による植樹が行われ、10月にはワーキングツアー参加者21名もフルス村々民の手助けを受け沙柳の植樹を行いました。以上の報告についての議案は全会一致で承認されました。

第2号議案では2014年度事業計画及び事業会計が提案されました。計画では日中緑化交流基金より支援金を受けオトカ前旗での事業を実施します。同基金よりは昨年末

に支援金交付の承認の決定をうけています。植樹地はオトカ前旗側との協議の結果ハリサリ村に移動し第2期事業として活動します。一方、蘭州市での事業としては第4期事業を開始し、会費・寄付収入等の資金からの支援資金を30万円を予定しています。

第3号議案は今年度が2年ごとの役員改選年度に当たるため、役員改選案です。今回は理事1名・監査委員1名の退任の申し出がありました。このため監査委員は1名の補充が提案され、他の理事は引き続き留任することで提案がありました。この議案も原案通りで承認されました。

第二期事業始まる

上記の総会報告でも触れていますように、内モンゴル自治区オトカ前旗フルス村での第1期の3年間の植樹活動は一区切りを迎えました。この間、植樹面積100haに地元樹種の沙柳・楊柴を計19万本植えてきました。本年1月の国家林業局による13年度事業に対する検査では、樹木の活着率も70%を超えており、事業は概ね良好に実施されているとの評価も得たようです。また、3年前に植えた楊柴・沙柳は昨年秋のツアーで見ると、人の背丈ほどに成長したものもあり順調に成長していました。飛砂に耐えたりするにはまだまだひ弱な姿ですが、今後も順調に生育することを願わずにはられません。

今年度からの第2期事業はオトカ前旗側との協議の結果、対象地区はハリサリ村に移動しました。当地も沙漠化の進行している地域です。3月には巻頭写真にもありますように村民による植え付け作業が始まっています。事業規模・内容は第1期と同様です。第1期植樹地の課題は、順調に樹木が成長するように病虫害・動物(野兎・ネズミ等)による食害などを防ぐ管理事業を地元が行うことです。我々にとっても大いに関心を持って見守ると共に、我々も今後どのような支援ができるか考えなければならぬ問題です。

総会終了後は、京都府立大学大学院准教授福井亘氏による「生物多様性と緑化」のテーマで講演が行われました。



植栽後3年を経過した状況

神戸日華実業協会からの チャリティーゴルフ収益金贈呈式

今年も多額の寄付金をいただきました。



神戸日華実業協会の昼食会が6月18日(水)東天閣で開催されました。この席で、今年5月に

神戸日華実業協会が主催したチャリティーゴルフコンペ収益金贈呈式を開催して頂き、新会長から86,000円を贈呈されました。神戸日華実業協会からは毎年恒例としてチャリティーゴルフコンペ収益金を寄付して頂いています。今後も我々『黄河の森緑化ネットワーク』の理念通り地球環境保護に少しでも貢献する事を力強く推進しようと考えています。

最後になりますが神戸日華実業協会の皆様ならびにチャリティーに協力して頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。これからも宜しくお願い致します。

事務局長 矢野正行

講演 生物多様性と緑化

京都府立大学大学院 福井 亘
ランドスケープ学研究室

『生物多様性』。この生物多様性について多くの人は、どういった認識を持つでしょうか。生物多様性という単語は、様々な場所で聞かれる単語で、その意味は、「生き物たちの豊かな個性とつながりのこと」(環境省生物多様性センター)と云われています。このことは、私たちの生活の中や行動の中において、生き物たちとの連鎖、生き物との豊かな繋がりを創り出しているものと認識されるものです。

そこで、本題目である「生物多様性と緑化」について視点を向けると、様々なことが見え、それに対して様々な事を思考する必要に気が付いてきます。生物多様性と緑化に関して考える中で、景観生態学(Landscape ecology)的な思考が最適だといえます。景観生態学は、環境や地理、生態系などを包括した実学です。その中でも3つの側面と項目が重要といわれます。フォアマン(Richard T. T. Forman)の著書の「Land Mosaics」で示した3つの側面は、熟考に値する内容です。それは、「構造(区分された生態系やそこに存在する要素)」、

「機能(空間と空間の相互関係)」、「変化(空間での時間軸)」が大切と述べています。次いで、項目の構成要素について、「パッチ(区画:点状あるいは斑状の平面形状)」、「コリドー(回廊:帯状や線状の形態)」、「マトリクス(間質:パッチとコリドーを取り巻く空間)」を示しています。

これらは、生物多様性と緑化に大いに関連し、包括した内容として、「空間の単位」への理解が重要となってきます。この「空間の単位」とは、簡単に示すと「縦」と「横」と「時間」を見て把握すること、すなわち四次元的に事象を把握し、理解して行動することです。緑を含め生き物は、縦・横・時間の中で生きています。植物の成長の時間や昆虫、鳥たちなどの生息できる環境と生きてきた時間、生きていく時間とをしっかりと把握し、多様性に思考をめぐらしていくことが必要といえます。この点を考えることによって生物多様性の豊かな環境が見えてきます。

ドイツ・バイエルン州による『耕地整備によるビオトープ保護

(Biotopschutz in der Flurbereinigung)』の文献によると、生き物がいる空間の自然の生態系を包括して守り、環境を保全するといった項目として次の四項目が示されています。それは、「新たな(環境・耕地の)創出」、「保護・維持」、「(環境・耕地の)改善・再建」、「管理」です。この項目は、緑化することで生物多様性の持続性の示唆をしているといえます。

緑化を行うことは、我々を取り巻く環境と生活にとって、重要な点です。加えて、緑化から生物多様性への重要性が見い出すことが出来れば、さらにより良い結果を導き出すことが可能と考えられます。「生物多様性と緑化」は、前述の項目を考慮すること、それを理解し、対応することによって、発展的な対応が可能になるものといえます。特に、一方的な視点だけではなく、多角的な視点のもとに考えることが大切で、このことが持続可能な生物多様性と緑化につながるものといえるのではないのでしょうか。

***** 第11回 総会そして懇親会 *****

平成26年度『黄河の森緑化ネットワーク』の総会を5月31日(土)三宮の中華会館で開催しました。正会員のうち出席者は23名、委任状提出者は87名の計110名で何とか成立しました。もう少し多くの会員の出席を頂きたいと思うのですが、これも時代の流れと云う事でしょうか。

総会では事業報告および会計報告を事務局から説明し無事了承を受けることが出来ました。その後、京都府立大学大学院の福井亘准教授による「生物多様性と緑化」の講演を頂きました。

引き続き場所を、『黄河の森緑化ネットワーク』の会員でもある、

南京町の「少々心縁」に変え懇親会を行ったのですが、大変美味しい料理を頂くと共に大変なサービスをして頂き格安の値段で宴会を開くことが出来ました。オーナーで料理長の陳さんご夫妻には大変な迷惑を掛けたのではないかと心配していますが、また機会があれば是非お世話になりたいと思っています。

前述したように、少々心縁は福建省出身の若いオーナーが経営しており『黄河の森緑化ネットワーク』の会員であります。他にも多くの福建省出身の方に会員になって頂いています。

これは神戸三宮の福建省出身者



の組織「福建同郷会」の会長が我々『黄河の森緑化ネットワーク』の副代表理事 林文明さんと云う事もあり、「福建同郷会」との繋がりが年々強くなって来ています。このような繋がりを大事にし今後もますます発展させて行きたいと考えています。

私と環境(20) 庭木の健康診断 ⑫

樹木環境研究会議「ミルフィーユの会」
天野孝之

庭の手入れ 一梅一

昔の家の庭には、松と梅は必ず植えられていました。しかし最近はずいぶん少なくなってきました。まだ寒さが残る春一番に咲き、ほっとする気分になります。また香りも素晴らしく、「匂い起こせよ梅の花」とも歌われています。庭に植える目的は、花や香りとともに、実を採取し、果実酒や梅干しを作る楽しみもあります。しかし実を採取するためには、花が一重の品種を植える必要があります。八重の花は雄しべが花弁化し、生殖機能のバランスが崩れています。このため実が成らない場合が多くあります。日本人は梅の愛好家が多く、いろいろな品種がつくりだされていますので、気に入った品種を選び庭に植えましょう。実を採取する目的がある場合は、花粉親として相性の良い花粉親となる品種をもう1本植える必要があります。春花が咲いた後4-5か月後には採取できます。松の場合は約1.5年、春花が咲いた後、ひと冬越えて翌年の秋に即ち1年と半年かけて実が充実します。不作の年がありますが、その原因の一つに開花時期の気象状況も大きく影響してきます。雨が多いと花粉が流されることも起こります。また花粉を媒介するミツバチ等が飛べないことに

も起因します。ミツバチが飛べないのは開花時期が低温であることも考えられます。不作の年は開花時期の気象条件等も考えてみましょう。植える場所は、日当たりのよい場所を特に好みます。花後にはお礼肥えを、冬に寒肥として発酵油粕や鶏糞堆肥などを施します。花後新しい枝が勢いよく伸び、7月ごろに翌年の花芽が形成されます。正月前にはこれらの花芽も大きくなり一目で確認できますので、花芽を残しながら伸びすぎた枝を切り詰めます。花後に葉が茂っても枝幹にも充分日が当たるように剪定をします。未熟な青梅や種子の仁には青酸配糖体が含まれ、食べるとけいれん、呼吸麻痺など激しい中毒を起こすといわれています。しかし、昔は梅干しの種の中にある仁を、堅い殻を割って取りだし食べた記憶がありますが、腹痛も起こらなかったです。庭に植えるだけでなく、小さな鉢に植えた盆栽としても楽しむ人が増えてきました。最近の建築事情がそうさせるのでしょうか。また大きな鉢に植えて「盆梅」として早春各地で盆梅展が開催されています。

「梅に鶯」とよく言いますが、梅の花にはウグイスよりもメジロがよく

飛来します。メジロは目の周りが白く縁取られ、羽はまさに美しいウグイス色をしています。ウグイスは少々汚いウグイス色をしています。簡単に区別ができます。

枝葉にアブラムシ類が多発しますが、農薬登録の取れた薬剤を発生初期に散布します。放置すると、葉が縮れたり、すす病といって葉が真っ黒いすす状物で覆われます。またカイガラムシ類もよく発生します。カイガラムシの種類によってはすす病やこも病を併発します。花芽が動き出す前の冬季に石灰硫黄合剤を殺菌を兼ねて散布するとよいでしょう。オビカレハ、マイマイガ等のケムシ類もよく発生します。よく庭木を見て回り、発生初期に登録のとれた殺虫剤を散布し被害拡大を防いでください。早期発見早期駆除に心がけてください。

梅の木に生えたサルノコシカケを煎じて飲めば癌に効くと、よく言われましたが、その効果はあったのでしょうか。このようなサルノコシカケが発生するような梅の木は、樹幹が相当腐朽してきています。幹が折れる危険性が大変高いので、早急な治療を必要とします。

絵本からの エコメッセージ 19

「だいこんどのむかし」

児童文学者 畑中弘子

この昔話絵本の監修者、松谷みよ子さんは「地球という単位でものを考えなくてはならない今、日本だけでなく世界の子供たちに伝えたい作品」と、20年前の発刊当時に言われているのです。それから重版を重ねている絵本です。

内容は貧しい村に育った大きくりっぱな大根の物語。収穫を楽しみに、水やこやしをやり、土を柔らかくして大事に育てます。ものすごく大きくなった大根を、村人たちがひきぬこうとするのですができません。巨大な大根は大きな日陰をつくります。屋根や囲いになって、台風や大雪から守りました。村人たちは平穏な日々を過ごし、穏やかな日常が当たり前になるようになります。すると、大量の水やこやしをやるのが面倒でたまらなくなりました。とうとう大根に「でていってくれ」とせまります。大根はでていき、屋根や囲いがなくなりました。とたんに台風や大雪がおしよせ、みるみるうちに村は荒れはててしまいました。

いかにも昔話風な物語ですが、読後、はたと考えさせられます。恵みに慣れ、感謝を忘れ、怠惰になってはいけないうのだなあ……。

何が大事かを考えて、今を誠実に生きていきたいものです。



渡辺節子：文
二俣英五郎：絵
ほるぷ出版

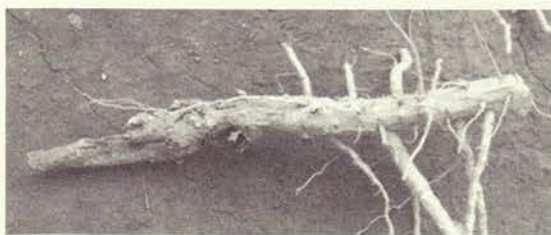
黄土高原の植物 ②②

白銀は招く、ブンカンカ(文冠果)はいかがですか～

KFG顧問 徳岡正三 (元高知大学農学部教授)

「白銀」。きれいで見栄えのよい字である。蘭州から北北東へ直線距離で60kmほどのところに白銀市がある。2013年秋に蘭州から銀川へのバスに乗ったKFG旅行団の皆様は、第1回目の休憩をこの町でしたのでご記憶かもしれない。白銀(はくぎん、中国語ではバイ・イン)は銀の通称のようだが、旅行団の案内をしてくれた田文革氏の説明では、かつて銅の採掘と精錬をしていたが、採掘量が少なくなつたので、今は外から原鉱を持って来て精錬だけをしているとのことだった。予想に反して銀の話はなかった。それでもインターネット情報ではかつて金や銀の採掘をしていたという。

さて、この白銀市の話題が中国林業791号(2013年11月下旬号)に載った。記事の題名は「ブンカンカ産業の建設を強め、白銀の林業



水を貯えるといわれ、幹(左端)よりも太いブンカンカの根

発展を促進する」である。ブンカンカの記事は同786号(同9月上旬号)にも「子午嶺林区でのブンカンカの発展の前途」と題して掲載されている。子午嶺は甘肅省と陝西省にまたがる黄土高原の一角である。さらに、私たちと同じく黄土高原で活動している環境保全ネットワーク京都も小淵基金の助成を得て陝西省の淳化県でブンカンカの植栽に取り組んでいる。ブンカンカはここに至って黄土高原で「もてもて」のようだ。

ブンカンカがなぜもてるのか、その理由は前々回このシリーズの

No.20で取り上げた。最も注目されているのは種子油からディーゼルエンジンを稼働させる代替液体燃料(中国語は生物柴油、日本でいうBDF)が採取できることである。その前に、何よりも黄土高原で育つ能力を持つことである。根を掘り上げてみると、ぶよぶよとして軟らかい。根が水を貯えているという。黄土高原のような雨が少なく乾燥した土地でも育つ仕組みもっているようだ。

白銀市はすでに1980年代からブンカンカの植栽があり、2003年に退耕還林政策の進展を契機にさらに進み、現在1万ヘクタール余の面積に達しているという。ねらいはやはり生物質エネルギー林として育て、種子油生産というあらたな産業を起し、いわゆる新農村建設とも連動して、農村振興をはかろうとするものようだ。しかし、資金の不足や、生産の技術・施設、流通・販路など多くの整備しな



オトカ前旗のانس鎮に生育する中華文冠果王

ければならない課題をかかえている。他の地域と同じく、白銀市でも(いわば農民の企業体のような)「專業合作社」を立ち上げ、本格的に動き出したばかりという段階であろう。

オトカ前旗のانس鎮には中華文冠果王と呼ばれる約280年生のブンカンカ古木がポツンと成長している。その他各地で孤高の古木を見かけたことがある。昔から有用な樹木として大事にされながらも、全体として衰退の傾向にあったのが、エネルギー安全保障の面から見直され、再び脚光をあび始めたということだろうか。いずれにしても今後の成り行きが注目される植物の1つである。

六甲山クリーン&グリーン活動

六甲山植樹(下草刈り)

— 1期植樹活動 —

- 開催日時 平成26年9月20日(土)
※雨天中止

《下草刈り作業》

(雑草抜き・手鎌による刈り取り)

- 集合場所 JR住吉駅南広場
午前9時

- 服装 長袖、帽子、運動靴

- 持参品 弁当、飲み水、軍手、
雨具、タオル



参加できる方は
事務局までお知らせ下さい

六甲山クリーンアップ活動

— 身近にできることから始めよう —

- 開催日時 平成26年9月13日(土)
- 集合場所 華僑会館(神戸市中央区)
午後3時

- コース 再度山ハイキング道

- 持参品 飲み水、軍手、雨具、
タオル



河内長野を訪ねて ー歴史散歩に参加してー

事務局長 矢野 正行

新年度初めての歴史散歩を6月14日(土)、大阪府河内長野市で行いました。参加者は18名と多数となりました。

河内長野は南北朝時代の史跡が多くあり、また有名な日本酒「天野酒」の蔵元が有る事でも知られています

10時ちょうどに「なんば高島屋デパート」の正面入り口に集合し、南海高野線電車でボランティアガイド3人と待ち合わせていた滝谷駅まで行きました。駅前で行程の説明や道路歩行中の注意事項などを聞き、名所旧跡の散策に出發しました。中でも印象深く残っているのは西高野街道沿いにある真言律宗河内長野松林寺です。真言律宗は真言宗の一派ですが、より戒律の厳しい宗派だそうです。奈良



真言律宗河内長野松林寺正門

西大寺が総本山で、唐招提寺や法華寺など有名な寺院が数多くあります。

河内長野松林寺は白鳳山とも呼ばれ、日本武尊が鳳になって舞い降りた土地と言われています。寺内には真言密教の真髓、仏の本質を所有するものを意味する両界曼荼羅があり今も信仰の対象となっています。

さらに西高野街道を歩き河内長野駅前河内長野神社に参拝しました。国の重要文化財となっている本殿前で記念写真を取り、近くの割烹南喜久で安くて大変美味しい昼食をいただきました。

散策の最後に目的の一つでもある天野酒造にお邪魔し、試飲をさせて貰いました。店お勧めの冷酒を大人数で遠慮なく頂きましたが、これがまた大変美味しくコクがありました。また酒の入ったくず餅もありこれも多くの方がお土産に買っていました。また酒の入ったくず餅もありこれも多くの方がお土産に買っていました。後で聞いた話ですが酒、くず餅とも大変に美味しくお土産に持ち帰った方は家人に大いに喜ばれたそうです。私も冷酒に舌鼓を打ちました。

開催3年目のKFG歴史散歩

KFG会員 小川 良太

2012年から開催を始めた歴史散歩は、今年で3年目を迎えました。今春の歴史散歩は宝塚市内の史跡をあきました。阪急電鉄宝塚線に沿って古道が残っています。これは西国三十三札所の観音参りの巡礼道です。その始まりは平安時代にあるとされていますが、広く庶民も巡礼するようになったのは室町時代以降と言われています。今回は阪急電鉄の駅から徒歩数分にある、西国の観音を総撰する中山寺の参拝から歩き始めました。現在は安産祈願で賑わっている御本尊を参拝した後、境内にある六世紀末ごろの古墳を見学しました。そして、大門の前の巡礼道を西へ約1kmにある次の目的地の中山荘園古墳へ向かいました。ここは昭和58年のマンション建設の際に調査された7世紀の古墳です。現在はマンション敷地の一角に保存され公開されています。この後南へと小浜へと向かいました。今は幹線

道路からも外れ閑静な住宅街となっていますが、江戸時代は西国への交通路と有馬を経て丹波地方への交通の要衝としての位置を占めていました。18世紀に灘五郷の取って代わられるまでは大酒造地としても知られていました。今回は古代と近世の史跡を見て歩きましたが、今後も幅広い時代の史跡を見学する予定です。

開催に当たっては毎回皆様には熱心に参加いただいています。多い時には20名以上の方々の参加を得てすっかり定着した感があります。訪ねる先によってはその近くに住んでおられる会員の方が、当日飛び入りで参加されたりするといったハプニングもあったり、あるいは初期の中国蘭州市へのワーキングツアーに参加されて以来の10年ぶりの再会があったりして、より一層にぎやかなイベントになっております。歩いた後には訪問地の近くで遅めの昼食を全員でとりながら、歓談の時間を過ごしています。そこではその日の訪ねた史跡の感想を話したり、あるいは様々な経験と年齢の方々の集まりならではの話があったりして、知らない間に長時間を過ごすこともしばしばです。当初の目標であった皆さんの親交を深めるには、多少のお役には立っているのかなと感じております。

親睦会開催のご案内

<KFG歴史散歩>

今回の歴史散歩は川西市方面をあります。当地には多田源氏の本貫地として著名な多田院があります。当院は明治の廃仏毀釈により現在は多田神社として信仰を集めています。

その他、国指定史跡や古墳・銅鐸出土地などの史跡があります。

- 日 時：平成24年11月15日(土)
- 集 合：阪急電鉄川西能勢口駅改札口 午前10時
- その他：歩き慣れた靴・服装にてご参加ください。小雨決行。

<松茸狩り>

今年も丹波市山南町の会員村上廣夫さん・三角修一さんのお世話により、松茸狩りとすき焼き鍋を囲んでの親睦会を開催します。

親睦会と宿泊は三角さん経営の民宿にお願いしています。

開催月日は10月下旬を予定しておりますが、現地の作柄状況にもよりますので参加をご希望される方は10月に入れば事務局までFAX・メールにてお問い合わせください。

会費・緑化支援金等協力者のお名前

(2014.1.1~2014.6.31 現在)

●前号で掲載できなかった会員も含まれています。

石 雅之	大森正美	神戸博愛病院	村井美紅
李 雲精	馬 文壁	魏 浩順	一井裕美
安本昭久	秋山 榮	三江会館	李家昌
原田季正	矢野正行	石 玉球	(社法)中華会館
一木 仁	青山 守	稲木 稔	(社法)神戸日華
柏原雅彦	青山史眞子	平野 勲	実業協会
佐藤正子	福入昭二	蔣 政茂	
中谷 康	マキノ商事㈱	村井 隆行	

●順不同・敬称略

お詫びと訂正

22号3ページ右の写真は(カササギ)、同写真下8行目福岡県の一部は(佐賀県と福岡県の一部)の誤りでした。